

小論文

広島大学 総合科学部 総合科学科 (文科系) 前期日程

<総括>

試験時間	150分	総解答字数	1,200字
------	------	-------	--------

- ・近年頻出の、「相対化」がキー概念となる。内容的には、「仕事と遊び」「近代と前近代」であった。
- ・久しぶりに、資料1で小説が出題された。文脈がやや把握しづらかったかもしれないが、資料に示された状況とその状況に置かれた人物の立場を理解することが不可欠だ。
- ・資料1を除き、本格的な評論文が出題された。しかし、現代文の標準的な力を身につけた受験生であれば、読みこなせる水準のものであった。
- ・資料3つの組み合わせは、見つけやすかった。ただし、資料1の使い道はやや限定されており、使い方がわからなかった受験生も少なくなかったと推察される。
- ・資料の内容が濃密であるため、読解力と主題設定力の間には、やや乖離があったと思われる。正確に論点をとらえると同時に、他の資料との関係を整理して、一つの主題を構築する力は、高い水準が求められた。
- ・多様な問題関心に即して書かれた資料を組み合わせることで問題を発見し、身近な課題と関連付けつつ、論ずるに値する一貫した主題を設定し、論文を作成する力が求められているという点は、全く例年通りである。この出題方針は、現在進みつつある教育改革の要求に沿っている。大学で研究し、あるいは社会に出て取り組む現実の課題は難しく複雑だ。難しいことの難しさに翻弄されることなく、それを自らの力で探求できるまでに解きほぐす力が、今まで通り求められる試験であった。
- ・ここ近年、設問上でキーワードが与えられないタイプの出題が続いている。しかし、資料の関連性は見だしやすい。

<課題文の分析>

大問番号	一
内 容 (主題)	近代化論 (労働/遊び 近代/前近代)
出 典 (作者)	【資料一】ルナアル著、岸田国土訳『にんじん』岩波書店、1976年(1,131字) 【資料二】内田節『山里の釣りから』岩波書店、1995年(1,511字) 【資料三】山極壽一『共感革命 社交する人類の深化と未来』河出書房新社、2023年(1,461字) 【資料四】山口昌男『学問の春 〈知と遊び〉の10講義』平凡社、2009年(2,034字) 【資料五】西村清和『遊びの現象学』勁草書房、1989年(1,844字)
長短・ 難易等 前年比較	資料総字数 約 7,940 字 長短 (短い・やや短い・変化なし・やや長い・長い) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
一	課題文	学部系統的	一	論述	1,200字	5つの資料から3つ以上を選択肢、その内容を踏まえて小論文を作成し、適切な題をつける。

※出題形式は「テーマ・課題文 (英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

<答案作成上のポイント・学習対策等>

- ・複雑で多様な問題から課題を取り出し、分析・推論を行いながら一貫した論文を作成するという出題は、例年通りである。
- ・解答例も参考に、繰り返し過去問に取り組みながら、主題設定の仕方を体得してほしい。なお、解答例一と解答例二の使用資料番号は共通している。しかし、論述主題が全く異なっている点にも注目してほしい。特定の資料を選択すれば自動的に主題が定まるわけではない。主題設定において大切なのは、受験生自身の問題意識だ。
- ・しかし、様々なテーマについての意見を、あらかじめ固定的に準備することは、有効な対策ではない。受験生がそれぞれの資料から新たな観点を得、問題を投げかけ、自身の考えを修正・構築することこそが、必要である。
- ・解答例は正解ではない。自分の答案作成プロセスを、指導者の下で習得すべきだ。